

学校法人松原学園幼保連携型認定こども園ひばりが丘幼稚園
令和6年度「学校評価」実施内容報告

令和6年度「学校評価」の実施内容を下記の通り公開します。

I. 実施概要

- 対象者内容 令和6年度在園児保護者及び職員

対象者		対象者数	回収率	回答率	実施期間
保護者	全学年	177名	140名	82%	令和7年2月5日～2月14日

<p>◎保育・教育目標『ひとりあるきのできる子ども』</p> <p>じょうぶな子— 何でも食べて 元気に遊び 健康な心と体を育てる</p> <p>かんがえる子— 考える喜びを知り創造性のある実践力を身につける</p> <p>やさしい子— 仲良く力を合わせ思いやりの心いたわりの気持ちを育てる</p> <p>がんばる子— 元気よく挨拶ができ 最後までやり遂げる気持ちを育てる</p> <p>はたらく子— 土に親しみ勤労の喜びと手伝いの出来る態度を身につける</p> <p>◎令和6年度職員の重点事項</p> <p>『一人ひとりの育ちに寄り添い、保護者との安定したかかわりの中で成長を育む』</p> <p>〈乳児組 重点事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達段階を考慮した保育を通し、アタッチメント（愛着形成）を重視した生活を送る。 <p>〈幼児組 重点事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる・遊び込める環境の中で、経験を深めながら探究心を育む。

II. 保護者アンケート

※質問について、あてはまると思われる個所に○印をつけてください。

A：そう思う B：やや思う C：あまり思わない D：思わない

【園の運営について】

	内 容	保護者			
		A%	B%	C%	D%
1	園は教育理念や教育方針を分かりやすく伝え、教育目標を念頭に置いて保育をしていますか。	84.9	15.1	0	0
2	園はお子さんの育ちや個性を尊重し、一人ひとりを大切に保育をしていますか。	82.7	15.1	2.2	0
3	園はお子さんの生活が豊かになるような行事を、乳幼児の実態に合わせて行っていますか。	80.5	11.5	0	0
4	園は保護者からの相談に対し、誠意のある対応に努め信頼関係を築くことに努力をしていますか。	82.0	15.1	2.9	0
5	園はお子さんの安全を守るための取り組みを行っていますか。(感染症対策・避難訓練等)	84.9	11.5	2.8	0.8
6	お子さんの育ちについて、喜びや課題など職員（担任）と共有できていますか。	74.1	21.6	3.5	0.8
7	職員同士、円滑なコミュニケーションの下、楽しい雰囲気の中で保育に従事しているように感じられますか。	69.1	28.1	12.8	0
8	園は保護者の要望を受け止め、幼稚園の改善に生かそうとしていますか。	72.7	25.9	1.4	0

【保護者の方が感じられていることについて】

	内 容	A%	B%	C%	D%
1	お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしていますか。	69.8	27.3	2.9	0
2	遊びや園生活に必要な決まりを知り、守ろうとする態度が育ってきていますか。	75.5	21.6	2.9	0
3	生活習慣（挨拶・食事・睡眠・衣服の着脱など）が身に付いてきていますか。	69.8	27.3	2.9	0
4	お子さんは食べることに興味や関心をもち給食を楽しみにしていますか。	70.5	24.5	4	1
5	お子さんはリトミック、体操、英語、マーチング、科学タイム等特色教育を楽しみにしていますか。(学年によって異なりますので、お子さんの取り組み内容についてお答えください)	82.7	16.5	0.8	0

Ⅲ. 総合的な評価

『ひとりあるきのできるこども』<じょうぶな子・かんがえる子・やさしい子・がんばる子・はたらく子>を保育・教育目標とし、「地域に根ざした幼児教育及び、保育の充実」と「特色ある教育・保育を通し豊かな感性と逞しい体の育成」をもとに、乳児組、幼児組共に日々の保育へ精進してきた。幼保連携型認定こども園として、早くも9年が過ぎようとしている中、間もなく10年目を迎えようとしていることに大きな節目を感じながら、乳児組で最も大切にしたいひとつに“アタッチメントの形成”（不安な時や感情が崩れた時に、信頼できる大人にくっついて安心感に浸ること）として、養護が大きく関わってくるところでもあり、重点事項として挙げ意識した保育を展開してきた。また、幼児組では“安心出来る保育環境”“探究心を育む”を重点として、日常保育の中で自然との関わりや多くの経験を通して質の高い保育・教育を目指して臨んできた。こういった保育の取り組みを保護者の方に出来るだけ早くお伝えし共有化を図っていきたく、活動写真を添付した個別連絡(クラス通信)等を通してより一層ご理解を頂く事が出来た。このような取り組みも保育の質に繋がる一つとして、年度の途中からではあったが、保育ICTサービスの導入によりアプリでの運用を開始し始めた事に対して（インスタグラム等も含む）アンケートの自由記載に多くの好評価を頂き今後繋がるご意見として受け止めた。一方、園の運営におけるアンケート7では、「職員同士、円滑なコミュニケーションにおける項目」に対して、またお子さんの姿から感じられることについてのアンケート1では、「お子さんが園に行くのを楽しみにしているか」3の「生活習慣が身についているか」の設問においていずれも「そう思う」「やや思う」の肯定的な回答の割合が高かったものの「そう思う」の回答が70パーセントを切る結果を真摯に受け止め、一人ひとりの職員が振り返り自己研鑽を積みながら取り組んでいかなければならない。ご感想、ご意見の中には、労いの言葉も頂いたが多くの方々に支えて頂いていることを実感することができ、職員の遣り甲斐や意欲にも繋がるものだが、謙虚さをもって精進していきたい。

Ⅳ. 今後の課題

年度末に各学年毎、教育課程を見直し、次年度に向けて課題となるところや継続していきたい事を確認し合いながら一年間の振り返りと、併せて職員の重点事項に掲げた内容についても検証し検討課題を見出してみた。個人の教育・保育観も大切などころではあるが、園全体の教育構想として乳児組から幼児組までの成長過程（入園から就学前まで）を通して大切にしていきたいところをより一層明確にし、日々の保育に臨んでいく事が今後の課題と感じる。

また、今年度のアンケート調査はアプリをとおし無記名で回答して頂く方法で実施をしたが、回答率は昨年度79パーセントに対して、今年度82パーセントといった状況であった。今後もこれまで以上に、園の運営に於いて理解や関心をもって頂けるよう園の様子や情報を発信し続け、充実した質の高い教育・保育を目指していきたい。そして、職員がワンチームとなって子どものより良い支援者となる為にはどうあるべきかを一つの課題として次年度に向けて取り組んでいきたい。